

YABUTANI

Yusuke

藪谷 祐介

富山大学芸術文化学部講師

1. はじめに

私の専門はコミュニティデザインと建築計画である。コミュニティデザインとは、社会的関係としてのコミュニティのデザイン／形成と、そのために必要となる場のデザイン、そしてそれらを支える社会的仕組みのデザインを通して、社会の課題解決や豊かな生活文化を形成するためのまちづくりの方法論¹⁾である。また、建築計画とは、人間の生活と建築の空間の関係を解明することを中心的な課題として研究されてきた学問体系である。建築もコミュニティも私たちの生活の基盤であり、よりよい社会や暮らしを創造するためには、建築（ハード）とコミュニティ（ソフト）の両方を適材適所でデザインする必要があると考え、私はこれらの研究に取り組んでいる。以下に私の研究内容について紹介する。

2. 住民主体によるまちづくりの手法開発の実践的研究

1) 「大子町屋台研究会」

茨城県大子町で取り組んだコミュニティデザインのプロジェクトである。りんご等のまちの特産品をPRをするために、新商品を開発し、オリジナルの軽トラ屋台を使って県内外の賑わい空間でその商品を販売するコミュニティの形成支援を行った。そのコミュニティは多世代多職種の構成員で構成され、それぞれが特技や能力を生かし合いながら役割を獲得し活動している（写真1）。

2) 「おおうプロジェクト」

札幌市南区真駒内で開催される「まこまない盆踊」の檜や地面をおおうための大風呂敷を地域住民が共同で作りあげる場と機会をつくることで、地域のお祭りへの新たな参加方法と地域コミュニティの創出を目的としたプロジェクトである。この大風呂敷づくりは、もともと震災後に福島で行われたアートプロジェクトで、それが全国に広まったものである（写真2）。

3) 「SCUまちの学校」

「SCUまちの学校」は、札幌市立大学による廃校を活用した大学キャンパスで、地域住民と学生が共に学ぶ合学舎として開校したものである。文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」として実施した。

私はこのプロジェクトのコーディネーターとして、立ち上げと企画運営に携わり、様々な地域志向型の教育・研究・社会貢献プログラムを展開した（写真3）。

3. コミュニティマネジメントのための住民主体によるまちづくり団体の組織論的研究

本研究は、住民が主体となってまちづくり団体をマネジメントするために、まちづくり団体の構成員の役割と参加動機に着目して分析を行い、まちづくり団体を成立させるメカニズムを解明することで、まちづくり団体を効果的・効率的に形成・運営するための知見を示すことを目的としている。これまで、数理的手法を用いてまちづくり団体の役割構造を視覚化する手法の開発²⁾、および構成員の役割と団体の活動タイプとの関連性を明らかにした³⁾。

4. 建築作品（河野正博建築設計事務所にて担当）

1) 独立行政法人 物質材料研究機構 理論研究棟

厚生棟を理論研究棟として改修するプロジェクトである。研究室に面して廊下を拡張したホールのような空間を設け、研究者が研究室に閉じこもるのではなく、研究者どうしの活発なコミュニケーションを促した。またその空間を外部デッキへと連続させることで、アクティビティが外に溢れ出し、この研究棟のコミュニティが外へと拡張することを目指した（写真4）。

2) はとり保育園

小美玉市立羽鳥保育所の民営化に伴って新たな設置される認可保育所の新築計画である。子どもたちにとって安全な保育空間を確保しつつ地域に開くことをコンセプトに、子どもたちの活動の見える化を図り、そこに新たな風景を創造した。その風景がまちに普及し、まちの賑わいを創出することを目指した（写真5）。

参考文献

- 1) 小泉秀樹：コミュニティデザイン学—その仕組みづくりから考える、東京大学出版会、2016.6
- 2) 藪谷祐介、椎野亜紀夫、斉藤雅也、柿山浩一郎、中原宏：まちづくり市民活動団体の役割構造の分析手法開発に向けた基礎研究、都市計画論文集 Vol.53 No.3、2018.10
- 3) 藪谷祐介、中原宏：まちづくり市民活動団体への参加動機と活動タイプとの関連性—「プレーヤー型」と「エリアマネージャー型」に分類して、日本建築学会計画系論文集、第82巻、第740号、pp.2661-2671、2017.10



写真1 大子町屋台研究会 (2010-)



写真2 おおうプロジェクト (2016-)



写真3 SCU まちの学校 (2015-)



写真4 独立行政法人 物質材料研究機構 理論研究棟 (2013)



写真5 はとり保育園 (2013)

